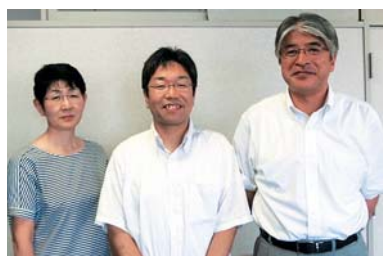


R-CAP

1年生6月の文理選択に向けて 将来を考える機会を段階的に提供

— 宮城・県立 宮城第一高校 —

取材・文／永井ミカ



右から
進路指導部 部長
佐伯聖一先生
進路指導部
柳澤幸司先生
進路指導部
大久保敏子先生

School Data

創立1897年／普通科・理数科
生徒数844人(男子101人・女子743人)
進路状況(2013年度)／大学進学67.4%・短大進学0.4%
専各進学2.6%・就職0.4%・その他29.2%
宮城県仙台市青葉区八幡1-6-2
TEL 022-227-3211
URL <http://www.miyaichi.myswan.ne.jp/>

2008年、女子校から男女共学へと変革した宮城第一高校。従来、学年ごとに1年単位で計画していた進路指導を整理し、現在の3年生から3年間を通じたキャリア教育プログラムを導入した。「入学する生徒はほぼ100%大学進学を希望しています。就きたい職業のための大学選び、興味ある学問を探究するための大学選び」を2本の柱として、生徒一人ひとりの進路実現を目指したい」と進路指導部長の佐伯聖一先生。従来からの取り組みのほか、新しい取り組みも積極的に導入している。

疑問点を徹底的に解消し 指導案で情報共有

3年間のキャリア教育を考えたとき、まず最初のポイントが文理選択。県からの要請で、1年生の6月に文理決定をしなければならなかったため、4月からのおよそ2カ月強の間にさまざまな指導を仕掛けていく。

4月に実施する適性検査を、今年度から「R・CAP」に変更。「試験的に、私とキャリアアカウンセラーが検査を受けてみました」と言うのは進路指導部の大久保敏子先生だ。「実際にやってみて職業と学問の適性の表れ方が興味深かったし、何より、選択肢が広がるのが良かった。例えば、文系の適性が出る一方で、理系のこういう部分にも適性があると選択の幅を広げてくれます。ビジュアルも

高校生向きで、キャリアアカウンセラーも導入に賛成でした。」

導入決定後、「R・CAP」について徹底的に研究したのは進路指導部の柳澤幸司先生。HPで資料を読み込み、測定結果の理論や結果の見方など疑問点はすべて「R・CAP」窓口担当者に確認。1年生の担任には全員体験版を受検してもらい、指導案を作り情報を共有した。「例えば、就きたい職業が否定された場合はどのように指導すればよいか、そういった疑問にすべていねいに答えてもらえたので、自信をもって生徒に取り組みさせることができました。単なる適性検査ではなく、職業カタログや学問カタログが冊子に付いてくるので、文理選択以降の学問や職業についての学習でも活用したかったこともあり、納得できるまで調べたのです。」

講演などをきっかけに 早くから進路を考えさせる

「R・CAP」で自己理解を深めた後は講演が続く。5月に東北大学教授が大学や学部・学科の選択について語り、次に社会で活躍する弁護士や記者などが講演。6月には教育実習生を囲みトークをする場が設けられる。

そして、6月中旬、生徒は文理選択を行った。「今年は、例年より生徒が納得し安心して選べたと思います。適性は一つの指標であり、思っていたものと違う結果

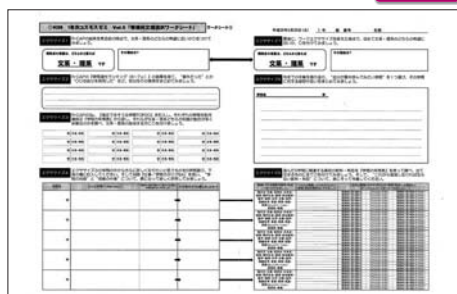
が出たとしても今の志望を変えなくても大丈夫など、学年の共通理解のもと落ち着いて指導できたことが良かったのかもしれない。例年、高校受験を終えたばかりでホットとしている、中学4年生をどうやって高校1年生にするか悩みますが、今年は早めに高1になってくれました」（柳澤先生）。

この後、「R・CAP」の冊子は学校に置いておき、オープンキャンパスや大学研究、学問研究などに使ったり、教師と生徒の対話を深めるきっかけにしておく予定。また講演なども引き続き積極的に行っていく。

「これまで学習指導には力を入れ、次の学年への引き継ぎもできていました。一方、進路指導は各学年の中で完結してしまっていました。今後、キャリア教育を校内でマニュアル化し、効果的な指導や行事をうまく引き継いでいくことが課題です」（佐伯先生）。

■ 文理選択ワークシート

ダウンロード可



「R-CAP」実施前の文理の希望を記入。実施後の結果や冊子を使った研究を通して、再び文理を考える流れになっている。